

Ⅲ

めざすとしぎの将来像



Ⅲ

めざすとしぎの将来像

1 としぎの将来像

人口減少・超高齢社会の到来や経済のグローバル化の進展、東日本大震災を契機とした防災に対する意識の高まり、さらには、地方創生への取組や東京オリンピック・パラリンピックの開催など、社会は今、時代の大きな変化の中にあります。

今を生きる私たちが豊かで安心して暮らせる社会を築き、次の世代にしっかりと引き継いでいくとともに、時代の潮流を的確にとらえ、本県の強みを十分に生かしながら、県民一人ひとりが未来に希望を抱き、ふるさとに誇りを持てる確かな将来像を描くことが重要です。

私たちが目指すのは、

- ◆ 次代を拓き、地域を支える人を創る「としぎ」
- ◆ 多様な産業が雇用を創出し、成長と豊かさをもたらす「としぎ」
- ◆ 健康で、安心して暮らすことができる「としぎ」
- ◆ 安全で快適な生活と産業を支える基盤が整う「としぎ」
- ◆ 豊かな自然・伝統文化を次代に引き継ぎ、人を惹きつける「としぎ」

です。

このような本県の将来像を、このプランにおいて、

人も地域も真に輝く
魅力あふれる元気な“としぎ”

として掲げ、県民の皆様と一緒に、その実現に向け全力で取り組んでいきます。

次代を拓き、地域を支える人を創る「とちぎ」

- 子どもたち一人ひとりの学力や体力が向上し、豊かな人間性とふるさとへの愛着や誇りが育まれることにより、社会を支え、新しい時代を切り拓く人材が育っています。
- 経済的安定と子育て環境の充実により、次代を担う若者の結婚や妊娠・出産、子育ての希望が実現するとともに、あらゆる場面で女性が活躍するなど、すべての県民が持てる力を発揮しています。

多様な産業が雇用を創出し、成長と豊かさをもたらす「とちぎ」

- 本県の強みである、ものづくり産業を基軸に、豊かな地域資源を活用した農林業や観光産業、新たな産業等が力強く成長し、安定した魅力ある雇用が創出され、若者の定住が進み、県民生活に豊かさをもたらしています。
- 若者、女性、高齢者、障害者など、誰もが意欲と能力に応じ、いきいきと働き、地域産業を支える多様な人材が育っています。

健康で、安心して暮らすことができる「とちぎ」

- 誰もが、住み慣れた地域に必要な医療・福祉サービスが受けられ、将来の不安なく心身ともに健康を保ち、生涯現役で活躍しています。
- 「自助、互助・共助、公助」の意識が定着し、共生の考え方のもと、地域全体で支え合い、犯罪等も少なく、安心して暮らしています。

安全で快適な生活と産業を支える基盤が整う「とちぎ」

- 県民の安全で快適な生活を支える社会基盤が良好な状態で維持・保全されるとともに、産業活動や地域間交流を支えています。
- 人口減少・超高齢社会に対応したコンパクトな都市機能が集積し、自立した地域コミュニティが維持されるとともに、災害に強く、人・モノ・情報を呼び込む魅力ある社会基盤が整っています。

豊かな自然・伝統文化を次代に引き継ぎ、人を惹きつける「とちぎ」

- 緑なす山々や清らかな水と空気、それらに育まれた動植物などの豊かな自然や、自然と調和した優れた生活空間が次の世代に引き継がれています。
- 貴重な歴史遺産、先人が育んだ豊かな伝統文化などが多くの担い手によって磨き上げられ、本県の魅力となり、ブランド力が向上し、多くの人を惹きつけ、様々な場面で「とちぎ」が選ばれています。

2 とちぎの将来像の実現に向けた基本姿勢

これまで本県では、様々な主体が立場や垣根を越え、相互に連携・協力しながら、住みよいまちづくりや地域の課題解決に取り組む「協働」によるとちぎづくりを進めてきました。

私たちを取り巻く社会環境が著しく変化し、さらには、急速な少子高齢化や人口減少という、かつて経験したことのない課題に直面している今、県民や行政、NPO、企業、団体など地域社会のすべての構成員が、若者の地域を支える意識の醸成や高齢者の社会参加の促進、男女の固定的な役割分担意識の払拭など、課題認識や価値観を共有しながら、「**地域をともに支え、次代を創る**」ため、行動していくことがますます重要になっています。

こうした観点から、とちぎの将来像の実現に向けた基本姿勢として、「**すべての県民が担い手として協働する**」、「**すべての地域が連携・協力する**」、「**すべての分野でとちぎの魅力を磨き上げる**」の3つを掲げ、とちぎづくりを進めていきます。

(1) すべての県民が担い手として協働する

すべての県民が、全員参加で地域を支え、新たな社会を創るという意識を共有し、「自助、互助・共助、公助」の考え方のもと、それぞれの役割を担い、協力し合うという協働の理念に基づくとちぎづくりを進めます。

県民や行政、NPO、企業、団体など多様な主体が、柔軟な発想で既存の枠組みにとらわれることなく、それぞれの役割や強みを十分に発揮しながら行動することにより、新たな価値を創造していきます。

(2) すべての地域が連携・協力する

各地域が抱える課題に対して、そこに住む人々が創意工夫を凝らし、地域資源を活用しながら主体的に取り組むとともに、自立した地域が連携・協力し、それぞれの持つ強みを最大限に引き出すことにより、元気なとちぎづくりを進めます。

また、地域の特性を生かしながら、それぞれの市町が自主的な取組を進め、県との適切な役割分担のもと、連携して行政サービスを提供していくことにより、将来にわたり活力のあるとちぎづくりを進めます。

(3) すべての分野でとちぎの魅力を磨き上げる

地域間競争が一層激化する中、本県のブランド力の向上は、観光誘客や企業誘致、県産品の販売、また、本県への移住の促進などにとっても重要な意味を持つことから、本県の魅力を磨き上げ、郷土を愛する心をさらに高め、県民一人ひとりが自信と誇りを持ってふるさととちぎの魅力・実力を発信し、本県の多彩な地域資源を国内外に広く伝えていきます。

また、東京オリンピック・パラリンピックや本県開催の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会などの大型イベント等も活用し、行政だけでなく、県民、企業が一体となったオールとちぎで魅力を磨き発信することで、ブランド力を向上させ、すべての分野で選ばれるとちぎを創り上げます。

3 とちぎブランド・デザイン

2020年、さらにその先を見据え、すべての分野で選ばれるとちぎを目指し、県民や行政、企業等が一体となって、とちぎらしさに磨きをかけるとともに、統一感を持った戦略的な発信を行い、「とちぎブランド」を確立していきます。

とちぎブランドのコンセプト


ブランド力を向上させていくためには、とちぎの魅力や伝えたい価値をわかりやすい言葉でデザインし、発信していく必要があります。

こうした中、国を挙げて地方創生の取組が展開されており、都市部を中心に「地方」への関心が高まりを見せ、暮らしや産業に新たな可能性を拓き、夢を叶える存在として、見つめ直されています。

また、地方を意味する「ローカル」という言葉が、地域固有の自然や文化を感じながら、心豊かに生きる空間という、新しい価値を持つ言葉へと成長しています。

本県は、充実した都市機能とともに、豊かな自然、優れた歴史・文化、人と人とのつながりなど、「ローカル」の良さを兼ね備えており、そうした本県の魅力・実力を最大の価値として、「ベリー グッド ローカル」という言葉に込めて国内外に発信し、地方のモデルとなっていきます。

そのためのキャッチフレーズを

ベリー グッド ローカル とちぎ
VERY  GOOD LOCAL

とし、オールとちぎでブランド力の向上に取り組んでいきます。

※ベリーは、「非常に」という意味と、「いちご」の意味をあわせて表現しています。

VERY 
GOOD
LOCAL
とちぎ

「グッドローカルなとちぎが
地方のモデルになっていこう。」
ローカルの良さが詰まったとちぎが、
前向きな決意を込めて宣言します。

4

とちぎ地域づくりビジョン

～21世紀の中頃を展望～



那須高原から望む関東平野

(1) 地域づくりの基本方向

1) 世界、そして日本の中のとちぎの役割と可能性

- 東京と東北・北海道を結ぶ南北軸と、太平洋と日本海を結ぶ東西軸の結節点にあり、世界へつながる交通の要衝として人・モノ・情報の集積が期待されます。
- 地震などの大規模な自然災害リスクが少ない利点を生かし、首都機能等のバックアップの受け皿としての役割が期待されます。
- 日照時間の長さや豊かな自然に恵まれ、太陽光、中小水力、バイオマス、温泉、地熱等の再生可能エネルギーの導入に適した環境にあります。
- 活力ある都市と自然豊かな農山村がバランスよく配置されています。

2) 基本的な考え方

① 人口減少等の潮流を踏まえた地域づくり

- 既存の市街地や集落などを中心に、規模や役割に応じて必要な機能を集積したコンパクトな拠点づくりを推進します。
- 各拠点、地域間のネットワーク化や市町間における互いの機能や特徴を生かした連携を推進します。
- 地域のコミュニティ機能の強化を図る等、生まれ育った地域で愛着を持って暮らせるふるさとづくりを推進します。

② 災害やインフラの老朽化に対応した強くてしなやかなとちぎづくり

- 耐震化・長寿命化等による社会資本の強靱化を推進します。
- 大規模な自然災害の発生に備え、危機管理対応力を強化します。
- 首都直下地震や南海トラフ地震等に備え、首都機能はもとより、企業の本社機能・研究機関・データセンター等の事業継続を可能とするバックアップ拠点としての都市機能の充実を図ります。



東北自動車道と圏央道を接続する久喜白岡JCT



東北自動車道佐野SAスマートIC

3) とちぎらしさを生かす視点

① 広域的な交流・連携と地域づくり

- 東京と東北・北海道を結ぶ南北軸と、太平洋と日本海を結ぶ東西軸の結節点に位置し、東京にも近い地理的優位性を生かし、コリドールネットワークの更なる活用を図ります。
- 県内各地の自然・歴史・文化・食といった多様で魅力的な地域資源を、広域首都圏※¹をはじめとする全国的な圏域での広範な利用を促進することで、本県の地域活性化や活力増進を図ります。
- 圏央道の全線開通や北海道新幹線の開業、さらには、リニア中央新幹線も見据え、中部圏・関西地域などの西日本との新たな交流・連携や、成田国際空港を通じた世界との交流・連携を促進します。
- 東京オリンピック・パラリンピックや本県で開催する国民体育大会・全国障害者スポーツ大会等の好機をとらえ、国内外との交流の促進、とちぎの魅力・実力の発信の強化によるブランド力の向上を図ります。

② 産業(商工業・農業・林業・観光業)や地域資源を核とした地域づくり

- 本県産業のより一層の振興を図るための基盤整備や、自然・歴史・文化・食等の地域資源を核とした地域づくりを推進します。
- 圏央道の全線開通など交通ネットワーク形成の進展を踏まえ、物流拠点や産業団地など産業拠点の充実を図ります。

③ ICTの進展等に対応した地域づくり

- ICTの活用により、集落のネットワーク化を促進し、地域コミュニティの活性化や交通・医療・教育・防災などの各分野における利便性の向上を図ります。
- ICTの活用による物流の高度化・効率化により、物流ネットワークの充実を図ります。

④ 再生可能エネルギー等を活用した災害に強い地域づくり

- 県内に豊富に存在する地域資源を生かした太陽光、中小水力、バイオマス、温泉、地熱等の再生可能エネルギー等を活用した地域づくりを推進します。
- 分散型エネルギー※²の導入拡大等により電力自給率の向上を図り、災害に強い地域づくりを推進します。



北海道新幹線の試験車両



リニア中央新幹線の試験車両

※1 関東地方1都6県に山梨県、福島県、新潟県、長野県、静岡県を加えた1都11県

※2 電力会社の大規模集中発電設備に対し、需要地の近隣に分散配置される発電設備全般

(2) めざすべき地域の姿 (21世紀の中頃を展望)

1) 世界・日本の中の県土とちぎ

① 世界へつながる交通の要衝として、人・モノ・情報を呼び込むとちぎ

- コリドールネットワーク等を最大限活用し、他県の拠点とも結びつき、県外・世界へと広域交流・連携が広がっています。
- これまでの道路・鉄道に加え、圏央道の全線開通や北海道新幹線・リニア中央新幹線の開業等により東北・北海道や西日本等からの人・モノ・情報の流れを受け止め発展しています。

② 首都直下地震等に備えた首都機能、経済機能等のバックアップに対応したとちぎ

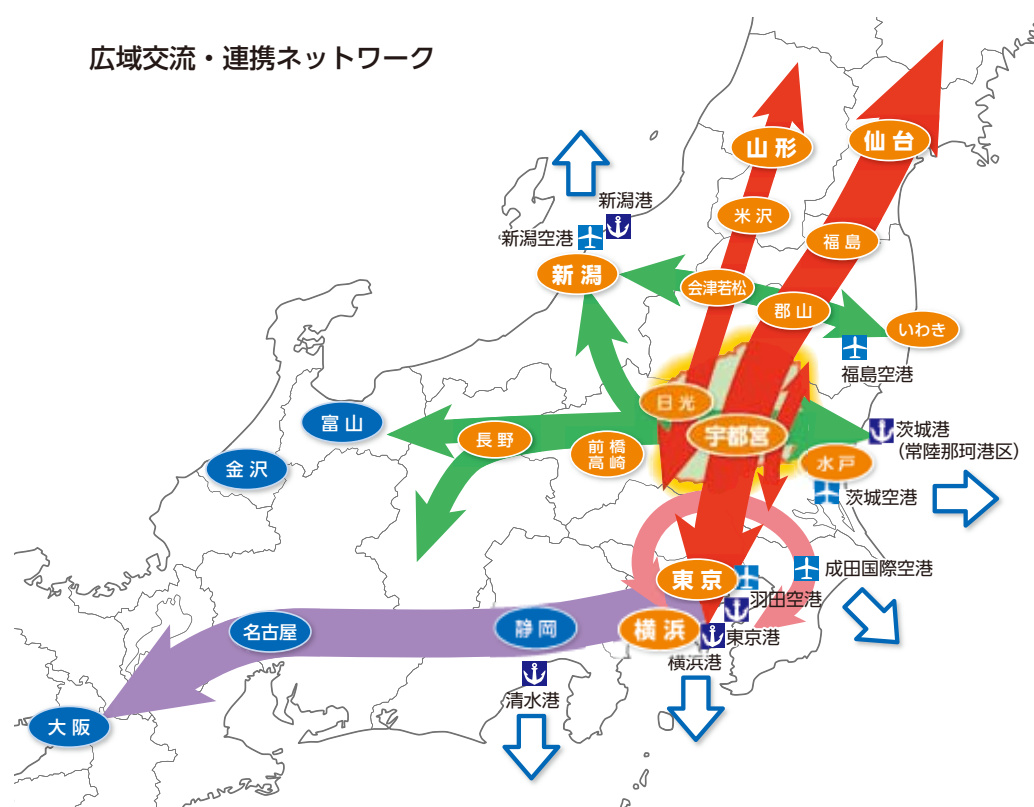
- 地理的優位性や地震などの大規模な自然災害リスクが少ない利点を生かし、首都機能、経済機能等のバックアップ拠点としてとちぎが選ばれています。

③ 内陸型のエネルギーインフラが整備されたとちぎ

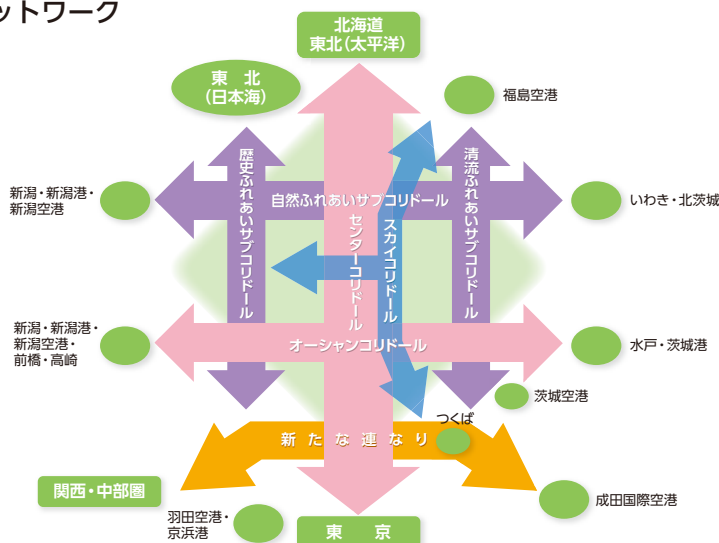
- 再生可能エネルギーをはじめとする分散型エネルギーの導入が拡大し、内陸型エネルギーインフラが整備されています。

④ 安全・安心な基盤が整う強靱なとちぎ

- 社会資本の耐震化・長寿命化等により強靱化等を推進し、安全・安心な基盤が整い、次世代に引き継がれています。



コリドールネットワーク



コリドールネットワーク

本県では、交通基盤等を軸に、人、モノ、技術、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを“コリドール”と呼び、そのネットワークの形成を進めてきました。

【3つのコリドール】～全国や世界とのつながり～

- センターコリドール：東京圏から東北・北海道地域を結ぶ広域圏を形成する国土の主要な連なりであり、情報・文化・人材の交流が展開されます。
- オーシャンコリドール：本県を太平洋と日本海に結びつける広域圏を形成する連なりであり、国際貿易港を通じて世界につながる産業や文化の交流が展開されます。
- スカイコリドール：成田国際空港、つくば及び福島空港を介して産業、文化、観光、科学技術などの国境を越えた多彩な交流が展開されます。

【3つのサブコリドール】～県内の個性ある地域の連なり～

- 自然ふれあいサブコリドール：本県北部を中心に茨城県北部と群馬県北部を結ぶ連なりであり、豊かな自然、歴史、文化とのふれあいを通じた交流が展開されます。
- 歴史ふれあいサブコリドール：本県西部を中心に東京圏から会津を結ぶ連なりであり、歴史、文化、芸術などを生かした交流が展開されます。
- 清流ふれあいサブコリドール：本県東部を中心に福島県、茨城県の県際地域を結ぶ連なりであり、那珂川沿川地域の自然、歴史、文化を生かした交流が展開されます。

【新たな連なり】：本県と関西・中部圏を結びつける新たな交流・連携をもたらすとともに、成田国際空港を通じて世界につながる連なりであり、更なる情報・文化・人材の交流が展開されます。

2) 県内のネットワーク

① 地域交流・連携

- コンパクトな拠点や拠点間を結ぶネットワークの形成により、都市機能や農山村における集落機能^{※1}が維持され、都市や農山村の各地域がそれぞれの特色を生かし、魅力ある地域となっています。
- 市街地や基幹集落等を中心に、それぞれが持つ多様性を再構築し地域資源に磨きをかけ、規模や役割に応じた機能がバランスよく集積した拠点が形成されています。
- 各拠点間の公共交通ネットワークの充実等により、人・モノ・情報の流れをつくり、圏域人口を確保し、イノベーションやにぎわいを創出し、活気ある地域づくりが実現しています。
- 県民や行政、NPO、企業、団体など、多様な主体が連携・協働し、それぞれの地域が、役割や特色を生かし、持続可能で自立、安定した地域社会を実現しています。

※1 主に、農林地・共用施設等の管理、集落運営、生活互助などの機能

3) 地域の魅力を生かす農山村

① 集落機能を集約化しネットワーク化する農山村(「小さな拠点」※¹)の形成など

- 地域の核となる基幹集落を中心に日常生活に必要な機能等が集約化しています。
- 地域に応じた交通サービスやICTの活用などで集落間のネットワーク化が進展しています。
- 集荷や宅配など農産物直売所への新たなサービス機能の付加や、NPO、企業、学生、移住者等、新たな活力の導入により、地域の暮らしや日常生活への支援が充実しています。

② 地域資源を生かした活力ある農山村

- 地域資源を活用した6次産業化の取組やICTなどの先端技術の活用等により、魅力のある産業が創出されています。
- 県内各地域の食の街道※²の取組や農山村資源を活用した新たなビジネス展開等により、都市と農山村との交流が活発化し、交流人口や定住者が増加しています。
- 多様な主体の参画による地域活動が活発化し、癒しや憩いの中核としての機能が充実するとともに、農山村が持っている豊かな自然や美しい景観、伝統文化や食、水源の涵養機能などが維持されています。

日常生活に必要な機能等を集約した「小さな拠点」のイメージ



資料：内閣府

※1 小学校区など、複数の集落が集まる地域において、商店、診療所などの生活サービスや地域活動を維持し、それらと周辺地域をコミュニティバスなどで結ぶことで、生活を支える新しい地域運営の仕組みをつくらうとする取組

※2 全国に本県農業農村の魅力を発信するため、地域の美味しい「食」をテーマに、その地域の景観や歴史、文化などの地域資源を結びつけ「街道」として設置したもの。「いちご」「そば」「牛乳」など10の街道が設置されている。

4) 活力をつくり出す都市地域

① 暮らしやすくコンパクトな都市

- 既存市街地や郊外の集落の中心などが拠点化し、各拠点が連携・相互補完しあう効率的な都市が形成されています。
- 空き家等の既存ストックも活用し、街なかへの居住が進んでいます。

② 誰もが安全でスムーズに移動できるネットワーク型の都市

- 地域内の拠点間を結ぶ公共交通ネットワークが充実・強化されています。
- 歩道や公共交通機関のバリアフリー化や自転車の利用環境の充実により、移動性が向上しています。

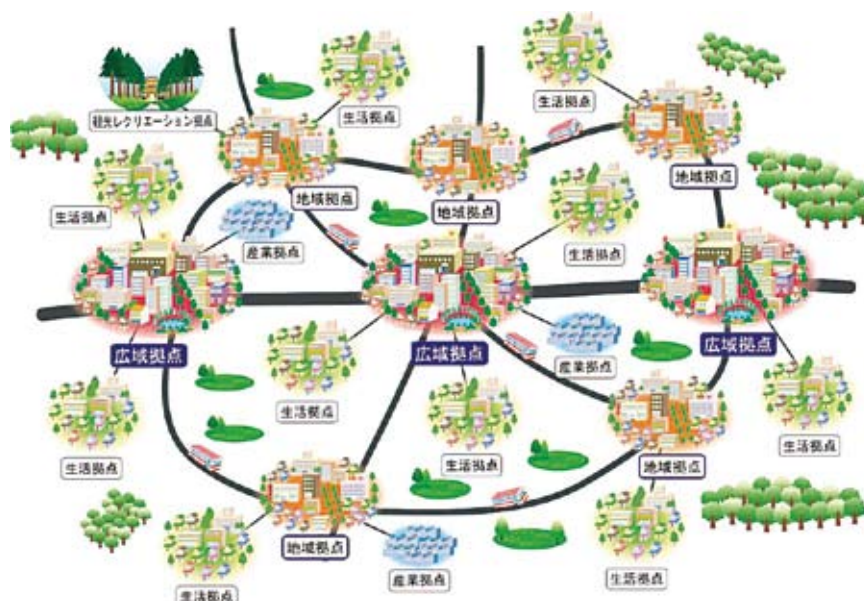
③ 環境にやさしいエコな都市

- 公共交通ネットワークの充実、再生可能エネルギーの有効活用、省エネ技術・ICTの導入により、スマートコミュニティ※¹の構築が進展しています。
- 公共投資の重点化や、社会資本の計画的な長寿命化、適切な維持管理等により、効率的な都市経営が行われています。

④ とちぎの魅力や強みを生かした都市

- 恵まれた立地環境や優れた交通ネットワーク等の活用により、交通利便性の高い地域等への産業集積が進んでいます。
- 観光地へのアクセスや周遊性の向上により、とちぎの魅力がより一層高まり、国内外からの観光客でにぎわっています。

本県の目指す都市構造「とちぎのエコ・コンパクトシティ※²」のイメージ



※本イメージは、都市計画区域など一体性のある都市を表しています

※¹ エネルギーの効率的な利用、熱や再生可能エネルギーの面的利用に加え、地域の交通システムや家庭、ビルをICTネットワークでつなげるにより、エリア単位でエネルギーを有効活用する次世代の社会システム

※² 人口減少・超高齢社会においても快適・便利で暮らしやすい、また環境にもやさしく都市経営コストの面からも持続可能な本県の目指す多核ネットワーク型の都市構造



とちぎの百様 その2 51~100



栃木県マスコットキャラクター
とちまるくん

県民の郷土愛の醸成と本県のブランド力の向上を図るため、後世に残したい、大切にしたい、自慢できる本県の100の地域資源を選定しました。雷を「雷様(らいさま)」と呼ぶように、「敬意」と「親しみ」を込めて「とちぎの百様(ひやくさま)」と名付け、郷土愛と誇りを持って県内外に広く発信していきます。

